

品質工学会「矢野宏賞」の設立について

矢野宏賞WG

畠山 鎮 Mamoru Hatakeyama

田村 希志臣 Kishio Tamura

常田 聡 Minoru Tokida

山村 英記 Hideki Yamamura

高田 圭 Kei Takada

山本 桂一郎 Keiichiro Yamamoto

小池 昌義 Masayoshi Koike

1. 矢野宏賞設立の目的と背景

品質工学会の元会長である谷本勲氏が、「新たな品質工学の道～これからの25年を見据えて～」¹⁾と題して、以下の3つの課題を挙げている。

①田口玄一氏亡き後の技術開発をどうするのか

②矢野宏氏のエコシステムをどう引き継ぐか

③結果として会員増を達成するか

①については、各種委員会やWG活動にていくつかの取り組みがある。また③については現品質工学会の会長である佐藤吉治氏から「賛助会員の増加施策」が打ち出されている。しかし、②のエコシステム（業界や製品がお互いに連携して大きなシステムを形成すること）に関しては地方研究会任せで、あまり学会として手が付けられていないのが実情である。

様々な業態の多くの人や組織を品質工学でつなぎ、相乗効果を発揮するとともに、その中で新たな品質工学人材を生み出すか。これが品質工学の発展や学会員の増加に大きく寄与することは容易に想像できる。そこで、「エコシステムを実践している」ことに対する賞を検討することにし、検討WGを立ち上げた。

WGのメンバーは、2023年11月からおよそ月1回の議論を重ねてきた。検討事項として、賞の

意義の確認、賞の対象と選考基準、賞の具体的な内容、賞の運営、募集、発表、授与などがあげられる。また、内容がある程度固まった段階で、審査表彰部会との意見交換を数回行い、内容のすり合わせを行った。

2. 品質工学会における賞の種類

品質工学会には、品質工学に関する優れた研究成果を社会に送り出した者を称える賞がすでに多くある。受賞を目指し、日々邁進されている会員も多いことであろう。

品質工学会論文賞、発表賞などは、その研究内容の優秀さが認められた賞である。日本規格協会理事長賞の場合、その選定基準は「品質工学に関連して広く日本の標準化に貢献する成果に対して与える。賞の選定にあたっては、品質工学の実践と普及を通して、社会ないしは企業、企業内組織、公益団体、学術団体に貢献した度合いを評価する。」とある。これらの賞は受賞者自身が優秀な成果を出したことに對する賞と言える。

しかし、優秀な研究を実施したのは当人でも、技術者をつなげて大きな成果を生み出すきっかけを作った人、教育を与えてくれる環境は本人の力だけでないことは言うまでもない。したがって、その優秀な品質工学の論文を発表した技術者を輩出した人に対して称える賞があってもよいのでは

ないかと、WG メンバーは考えた。残念ながら、技術者同士が切磋琢磨できる場を提供した人、人材を育成した人、いわば“縁の下での力持ち”にスポットライトが当たることが少ないのが現状である。人材が成長するには、一方通行ではなく、寺子屋のように、様々な分野の技術者がお互いに切磋琢磨する場を提供することが必要であるとする。

会員の皆様は、そのようなことを実践した人物として誰を思い浮かべるだろうか。人材を繋ぐ場を作り、人材育成に多大なご尽力をいただいた人物として、故矢野宏氏がまっさきに思いつくだろう。そこで、本賞の命名に際して、これまで品質工学のエコシステムに貢献された名誉会員である矢野宏氏の功績に敬意を表し、その名を冠し「矢野宏賞」とした。

これを踏まえ、品質工学人材の連携と育成に長期間に渡り貢献した個人を表彰することを検討した。この賞は、品質工学の指導や知識の普及に尽力し、技術者同士を繋ぐ場を提供し、技術者の育成をした指導者としての功績を称えるものである。

3. 矢野宏賞の概要

賞の名称：品質工学会 矢野宏賞

賞の目的：品質工学分野において、長期間にわたり品質工学人材を繋ぎ、人材育成に貢献している個人を表彰し、品質工学の発展と社会への貢献を奨励する。

賞の趣旨：品質工学の研究や普及に貢献する人材育成の重要性に基づき、技術者の連携と育成の場を提供し、品質工学の指導・知識の普及に尽力した指導者の功績を称える。

賞の対象：品質工学の実践者を生み出す場を提供し、技術者育成に寄与した個人。

目指す人材像：品質工学の基本的理念の教育・指導を行える者、組織体を運営・巻き込み、その研究を学会発表できるレベルまで引き上げることができる者。

賞の内容：賞状と盾を授与する。

他の賞との関係：品質工学会の他の賞とは独立しており、重複して授賞されることを妨げない。

4. 審査プロセス

WG はあくまで賞の設立を検討するメンバーであり、審査体制は別に設ける。

学会内に審査表彰部会とは独立した審査委員会を審査表彰部会の要請に応じて、矢野宏賞審査委員会を設置し、委員長は品質工学会会長、委員は副会長、審査表彰部会が運営担当を任命する形で行う。

審査プロセスは以下の通りである。これを隔年で実施する。

書類提出：自薦・他薦を問わず募集

事前審査：審査表彰部会が書類審査を実施、評価ガイドラインに基づき評点をつける

最終審査：矢野宏賞審査委員会にて審査

理事会承認：最終審査結果をもとに理事会にて承認

審査スケジュール：

7 月：学会誌で募集告知

8 月～10 月：賞の募集期間

11 月～12 月：提出書類の確認、審査資料の準備

1 月：事前審査

2 月：最終審査

3 月：理事会承認、受賞者への通知

4 月：学会 HP へ結果掲載

6 月：授賞式（品質工学技術戦略研究発表大会）

7 月：学会誌で受賞会告

WG では、規定、内規、審査ガイドラインを作成した。審査ガイドラインの詳細は公開しないが、組織体の運営や巻き込みに関する加点が多く、次いで教育・指導の実践が審査の対象となる。人材育成と学びの場の提供を行った者に特化し、評価基準を設定した。また、賞の選考間隔は人材育成という特徴から、毎年と考えず隔年で良いのでは

という結論に至った。

5. 応募方法と提出書類

多くの品質工学関係者の方々に、積極的に応募いただくことを期待する。特に地方研究会などで、多くの技術者を巻き込みながら、新しい人材の発掘、教育、実験や解析方法の指導を行っている人物からの自薦、またはそういった方への感謝を込めた他薦などを期待する。長年にわたり品質工学の人材育成を支え続けており、まだスポットライトを浴びていない方にこそ、ぜひこの賞を受賞していただきたいと考えている。

募集方法：品質工学会のホームページおよび会報にて募集要項を告知、自薦、他薦を問わない申請書類は品質工学会事務局に提出

応募資格：賞を受賞しようとする人物は、少なくとも5年以上品質工学会に個人会員として属し、継続して品質工学に関わる活動していることが必要

再応募について：一度応募して受賞に至らなかった場合、次年度以降に再度応募することが可能

提出書類：主に、何人の品質工学人材を輩出したか、何年学ぶ場を提供しているかが客観的にわかる資料を提出していただく。

- ・審査申請書：基礎情報の記入
- ・品質工学人材の輩出：申請者の関与がわかる論文、自著、共著、育成した者による論文、謝辞に対象者の名前が記載されている論文、J-StageなどのWeb上に公開され、誰でも閲覧可能な場合は、そのURLを明記し、それ以外の論文の場合は、その論文のコピーの提出
- ・活動実績報告書：主に教育と品質工学関連の運営実績について、過去20年間の実績を記載
- ・教育プログラムを提供している場合は、それがわかる書類：教育計画やシラバス、研究会等での教育実施報告
- ・産学連携の具体例：論文、プロジェクト報告書

など

・カウント対象外となるものとして、対象技術者の自主的なものではなく、強制的に実施させられたとわかるもの（会社指示で発表させられ、1回のみで終わったなど）

6. 受賞者への期待

この賞を与えられたものは、品質工学会から受賞を受けた指導者として、多くの人から広く認知される。指導者としての拍が付き、今後一層の品質工学人材の輩出に繋がる。

受賞された後には、以下の観点で、より一層品質工学の理念と実践を理解した人材を多く世に輩出していただくことを期待する。

- ・品質工学の理念の教育、人材育成、研究テーマの設定、評価技術の研究指導、公知化、議論を通じて最適解を求める意識での指導。
- ・品質工学の理念を普及させ、社会全体の生産性向上に寄与すること。
- ・人材育成の指導者として、その知識と経験を社会に還元すること。

7. 矢野宏賞支援金のお願い

支援金の目的：矢野宏賞の運営費用の確保

集金方法：法人・個人問わず、一口2,000円の募金

矢野宏賞の継続的な運営のため、ぜひ支援金へのご協力をお願いする。また、支援金にご協力いただいた企業や団体からも、受賞にふさわしい人材の推薦をお願いしたい。

2025年7月から賞の募集が開始される。自薦・他薦を問わず、ぜひ矢野宏賞への応募をお願いする。また、賞の長期運営のために支援金への募金をお願いする。

詳細は学会のホームページ、学会誌、並びに学会員メールにて確認していただきたい。

参考文献

1) 新たな品質工学の道～これからの 25 年を見据えて～, 品質工学会ホームページ, (2025 年 1 月 16 日 取得,

<https://www.rqes.or.jp/about/way/pprospect.html>)